



### 内臓脂肪症候群の該当者割合が高い原因と予防対策は

創政会 武藤 俊宏

●綾瀬市の健康づくりに向けての取組について

Q データヘルス計画の間評価では、内臓脂肪症候群の該当者割合が県内2位と男女とも高いが、原因と対策は。

A 原因の特定には至っていないが、予防には運動と食事が重要となるため、各種教室を継続的に実施し、該当者の減少につなげたい。

Q 認知症対応を居宅で行うことは、困難な点などが多いため、介護保険事業の施設サービスを増やす必要がある

と思うが、施設建設の状況は。

A 第8期介護保険事業計画は、3ユニット、27人定員のグループホームの整備誘導を位置付けている。令和3年度に事業者公募と選定を行い、5年度開設を予定している。

●保育事業について

Q 保育所や幼稚園などでの大変痛ましい事故や子どもへの安全に関わる事案が全国で発生している。国が進めている、バス送迎に関する安全対策や安全装置への補助などの状況と本市の対応は。



### 所得制限無しで18歳まで小児医療費の無料化を

公明党 三谷 小鶴

●子育て支援について

Q 人口定着のためには安心して出産や子育てができる環境整備が必要と考えるが、所得制限無しの18歳まで小児医療費無料化を拡大しては。

A 妊娠・出産・子育て総合相談窓口の設置などで、安心して出産や子育てができる環境を整えている。医療費無料化は、県の制度強化も踏まえ、対象年齢の引き上げが可能と判断し、令和5年度中の実施への準備を始めている。

●ハイリー・センシティブ・チャイルド(HSC)や発達性読み書き障害(ディスレクシア)について

Q 人一倍敏感な特性を持つHSCとディスレクシアが

A 国の安全管理に関する緊急点検の結果に基づき、送迎を実施している全施設で県による実地調査を行う。国の「こどものバス送迎・安全徹底プラン」は、安全装置導入への財政支援などが盛り込まれており、仕様や補助要綱などの内容が確定次第、最優先に必要な対応を行っていく。



市公式マスコットキャラクター「あやびい」



### 18歳まで小児医療費助成の対象を拡大しないか

日本共産党 上田 博之

●小児医療費の無料化を18歳までに拡大を

Q 小児医療費の無料化を18歳まで拡大するよう提言してきたが、実施する考えは。

A 令和5年度中の実施に向けて準備を始めている。

Q 独自に小児医療費の助成を行う自治体に対し、国は国民健康保険の助成金を減額調整措置しているが、対応は。

A 減額調整措置の見直しとともに、国主体での医療費助成制度創設を求めていく。



### 経年劣化が見られる公共インフラの耐用年数は

創政会 比留川 政彦

●公共インフラの維持や更新をどのように進めていくのか

Q 本市の公共インフラの多くは、設置後30年以上が経過し、維持するために修繕が必要と考えるが、道路や橋梁、下水道施設の耐用年数は。

A 道路施設の橋梁が60年、舗装が15年、下水道施設の管きよやマンホールが50年、処理場施設が30年である。

Q 道路や橋梁、下水道などの公共インフラの修繕や更新に係る費用の見込みは。

A 対象年数を50年で算定した場合では、道路施設は約44億円、下水道施設は約270億円を見込んでいる。

Q インフラ管理を担う技術職員の不足が行政間で懸念

されるが、本市の採用状況は。

A 新卒者対象の試験に加え、新たに民間企業等経験者を対象に通年での試験を実施しており、必要な配置定数を確保できる見込みである。

Q 公共インフラの維持や管理、更新を行うためには、しっかりと財源を確保する必要がある。今後、増大するインフラの更新費用に対し、基金などを創設しないか。

A 補助金などの特定財源が期待でき、1年間で執行可能な事業数を考慮すると、市費となる一般財源への影響は少なく、現時点で基金設置の必要性は低いと考えている。今後、設置が必要となった場合に備え、調査を行いたい。

合わせて栄養基準を満たすよう献立の工夫をしている。

Q 給食への率直な意見が寄せられるよう、各学校に匿名で投函できる目安箱の設置や、ホームページ上に投稿フォームをつくらないか。

A 児童・生徒や教職員からの声については、現在、集約方法の検討を始めている。

Q 副菜2品ではなく、なぜ1品だけの日が多いのか。

A 2コース分の副菜を2種類ずつ調理することによる制約がある。副菜1品の場合、果物などを提供するよう工夫し、2品の提供に努めていく。

Q 5月、6月、7月の栄養成分表では、何種類もの栄養素が不足しているが、今後改善していく考えは。

A 9月以降は全て目標範囲内である。補いにくい栄養素は、さまざまな食品を組み



### 高齢者にやさしいまちづくりに向けた取り組みは

畑井 陽子

●高齢者にやさしいまちづくりについて

Q 国は介護保険制度の改正を議論しているが、要介護1、2の訪問・通所介護が総合事業へ移行する状況などが進むと、各自自治体での施策の検討がますます重要になってくる。高齢化が進む中、コロナ禍における地域での高齢者にやさしいまちづくりの構築が難しいが、市はどう取り組むか。

A 国の議論を注視しながら、元気な高齢者を増やすための施策展開を検討するとともに、高齢者にやさしいまちづくりの視点に立ち、次期介護保険事業計画を策定する。

Q 本市の介護保険料は全国平均より低いですが、年々増え

ている。高齢者の金銭的な負担が今後も重くなるが、保険料上昇を抑制する方策は。

A 元気高齢者施策や介護予防事業に積極的に取り組むことで、保険料上昇の抑制につながるかと考える。

Q 介護職のなり手不足を解消するためには、本市で働く利点や動機付けが必要と考えるが、就労を促す対策は。

A 綾瀬西デイサービスセンターは、綾瀬西高等学校の生徒のボランティア活動の場となっており、将来の介護人材確保や育成につながると考える。市社会福祉協議会の行事にも高校生が参加しており、介護に関心を持つきっかけになっていると考える。



昨年12月21日、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、「市民ホールコンサート」が開催されました<市役所1階市民ホールにて>